

## 待降節第4主日

ルカ 1・26 - 38

2017.12.23 高円寺教会 18:30 ミサ  
クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

今日、朗読台からみことばを受けた私たちも、マリアと同じように天使からお告げを受けた人である。そう理解して良いと教会は言っています。ですから、マリアと同じように神のことばを受け入れた私たちも、いつの時代にも幸いな者と呼ばれることとなります。

しかし、私たちが神のみことばを受けてこの世で行うことは、ニュースで取り上げられたり、国から表彰されたり勲章をもらうこととして評価されることはまずありません。また、何か歴史的な偉業として褒められたり、一目置かれたり、通りに出るだけで人だかりができるとか、そういうことにもなりません。むしろイエスがおっしゃるように、全ての人に憎まれたり、身に覚えのないことで意地悪されるということはありません。神のことばを受け入れることによって、大変なことがその身に降り注ぐ可能性があります。でも、それでも私たちが幸いな者であることは間違いありません。

マリアに臨んだ神のメッセージは、「あなたは救い主をこの世にもたらず」ということです。自分が幸せになるから幸いということではなく、神のことばを語る者が不幸になっても、この世に必ず救いをもたらすから幸いだということです。私たちもマリアと同じように神のことばを受け入れたのであれば、必ず神の救いをこの世にもたらず者となります。

この世を救うことはものすごいことなのですが、人の目には非常に地味に映ります。教会が言っている神の救いとは、人間が神の子になるということです。私たちはもうすでに神の子として現実を生きているのですが、やっていることは非常に地味で当たり前のことです。泣いてる子どもを笑わせたり、電車で人に席を譲ってあげることです。とても当たり前のことです。神の子であることは人間らしい行動によって示し、気づいた人にとっては神の国の訪れのしるしとなります。しかし、それ相応の報いが返ってくるとは限りません。教会で奉仕をしたのに仇で返されたりすることはよくある話です。また、いじめられている人の立場に立ったがために、いじめられている人と一緒にいじめられてしまうこともあります。正しいことを主張したのに、共同体の隅っこに追い込まれたり、自分の功績を人に横取りされることもあります。聖書には「人から報いてもらわなかったことは、神様から報いてもらえる」と書かれています。

人間的な弱さを抱えている私たちにとって、そういったことは辛いことには間違いありません。

マリアと同じように、神のことばを聴いた人は神のことばを内に宿し、神のことばを語る人へと変えられていきます。神のことばは、命のないところに新しい命を与える力を持っています。神のことばを宿しているのであれば、私たちの努力とは関係なしに、命のないところに命を育むことができます。マリアがそうであったように、私たちも同じようになります。でも、それは人の目からは見過ごされやすい、つまらないものであるかのように映ります。

人は人から愛されたいので、人から評価されることを望みます。ですから、ラッパを吹きならしながら、自分の手柄をアピールし、人から褒められたいと望むものです。けれども、マリアのように神のことばを受け入れる人は、愛するために愛されるという見返りを放棄し、神のことばを受け入れる決断をします。

「自分の命を愛する者は、それを失い、自分の命を惜しまぬ人は、それを保つ」(ヨハネ 12・25)とも言われています。神のことばに信頼して、神のことばを受け入れ、みことばを生きる決意を新たにいたしましょう。